

横浜みどりアップ計画市民推進会議第14回調査部会資料

< 目 次 >

- ◆横浜みどりアップ計画平成27年度予算関係資料
（環境創造局平成27年度予算概要より抜粋）
・・・1頁

- ◆平成27年度 利活用事業年間スケジュール
・・・8頁

- ◆市民が森に関わるきっかけづくり事業平成26年度実績
（横浜みどりアップ計画(計画期間：平成26-30年度)平成26年度事業報告書抜粋)
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進 事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり
（1）森の楽しみづくり （2）森に関する情報発信
・・・9頁

- ◆2015年環境創造局ウェルカムセンター事業「レンジャーと森を歩こう」
横浜市立星川小学校 実施企画書
・・・13頁

横浜みどりアップ計画 平成27年度予算 関係資料
(環境創造局 平成27年度予算概要より抜粋)

■ 横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)の推進

平成27年度は、引き続き「横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)」に基づき、緑の保全はもとより、市民が実感できる緑の創出など、目標に向けた取組を、精力的に推進します。

■ 事業費一覧(公債費等を除く)

(単位:百万円)

取組の柱	施策	事業と取組	総額	みどり税充当事業		みどり税非充当事業
				事業費	(内みどり税)	事業費
取組の柱1 森を育てるとともに次世代につなぐ	樹林地の確実な保全の推進	①緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り事業	6,014	2,899	(624)	3,115
		・緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	6,014	2,899	(624)	3,115
	良好な森を育成する取組の推進	②生物多様性・安全性に配慮した森づくり事業	740	581	(581)	160
		・森づくりガイドライン等を活用した森の育成	483	324	(324)	159
		・指定された樹林地における維持管理の支援	108	108	(108)	-
		・生物多様性に配慮した防災性・安全性の向上	141	141	(141)	-
		・間伐材の有効活用	9	8	(8)	1
	③森を育む人材の育成事業	・森づくりを担う人材の育成	8	8	(8)	-
		・森づくり活動団体への支援	6	6	(6)	-
		計	14	14	(14)	-
森と市民をつなげる取組の推進	④市民が森に関わるきっかけづくり事業	65	25	(25)	40	
	・森の楽しみづくり	19	19	(19)	-	
	・森に関する情報発信	46	6	(6)	40	
計			6,833	3,518	(1,243)	3,315
取組の柱2 場をつくる身近に農を感じる	農に親しむ取組の推進	①良好な農景観の保全事業	218	108	(108)	110
		・水田の保全	69	37	(37)	32
		・特定農業用施設保全契約の締結	1	-	-	1
		・農景観を良好に維持する取組の支援	115	38	(38)	77
		・多様な主体による農地の利用促進	33	33	(33)	-
	②農とふれあう場づくり事業	・様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	732	723	(111)	9
		・市民が農を楽しむ支援する取組の推進	14	-	-	14
		計	746	723	(111)	23
	地産地消の推進	③身近に感じる地産地消の推進事業	48	-	-	48
		・地産地消にふれる機会の拡大	48	-	-	48
④市民や企業と連携した地産地消の展開事業		13	-	-	13	
・地産地消を広げる人材の育成		5	-	-	5	
・市民や企業等との連携	7	-	-	7		
計			1,025	831	(218)	193
取組の柱3 緑をつくる実感できる	市民が実感できる緑を創出する取組の推進	①民有地での緑の創出事業	62	49	(49)	13
		・民有地における緑化の助成	28	26	(26)	2
		・名木古木の保存	22	19	(19)	3
		・人生記念樹の配布	12	4	(4)	8
	②公共施設・公有地での緑の創出事業	・公共施設・公有地での緑の創出・管理	552	275	(275)	277
		・公有地化によるシンボリックな緑の創出	302	302	(22)	-
・いきいきとした街路樹づくり	289	289	(289)	-		

取組の柱	施策	事業と取組	総額	みどり税充当事業		みどり税非充当事業
				事業費	(内みどり税)	事業費
取組の柱 緑の柱 市民3 をつか 実感 できる	緑を楽しむ市民の盛り上げを醸成する取組の推進	③市民協働による緑のまちづくり事業	296	296	(296)	-
		・地域緑のまちづくり	296	296	(296)	-
		④子どもを育む空間での緑の創出事業	86	16	(16)	70
		・保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出	86	16	(16)	70
		⑤緑や花による魅力・賑わいの創出事業	528	498	(498)	30
・都心臨海部の緑花による賑わいづくり	528	498	(498)	30		
計			2,116	1,726	(1,446)	391
展 効 広 報 開 果 報 の 的 な		①市民の理解を広げる広報の展開事業	18	-	-	18
		・計画の周知や実績報告	18	-	-	18
計			18	-	-	18
総計			9,992	6,075	(2,907)	3,916

※四捨五入の関係により、合計が一致しないことがあります。

■ 基金及び特別会計について

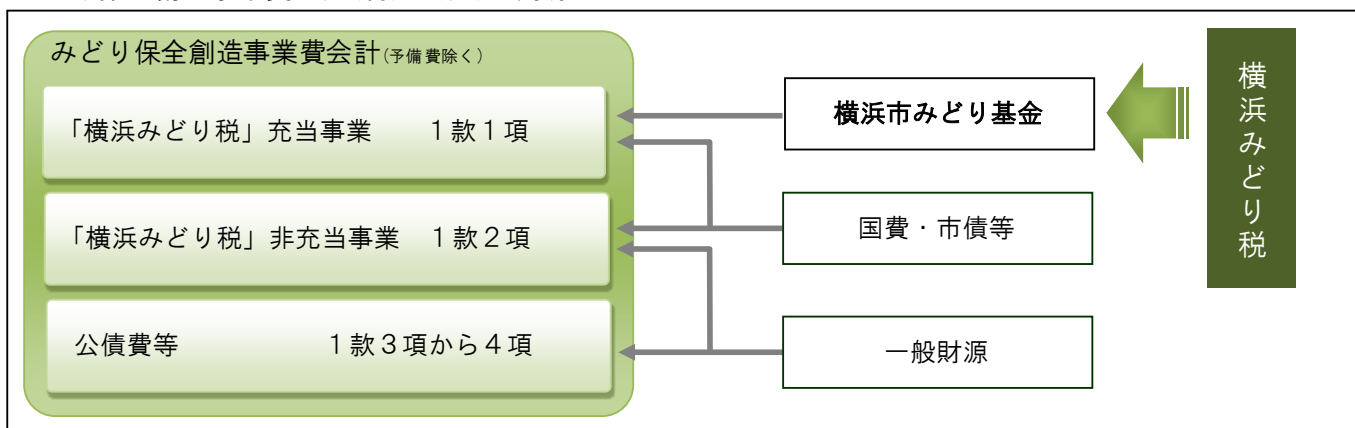
基金(横浜市みどり基金)

横浜みどり税は、市民税の超過課税の形でご負担をお願いするものですが、その税収の使いみちは横浜みどりアップ計画に限定されます。そこで、この税収を管理する基金を設置することにより、他の一般財源から明確に分離するとともに、年度間の財源調整も行います。

特別会計(みどり保全創造事業費会計)

横浜みどり税の用途を明確にするためには、横浜みどり税を充当して実施する事業のみならず、横浜みどりアップ計画全体について、その内容や進捗状況を他の施策と分離して明らかにしていく必要があります。そこで、横浜みどり税非充当事業(既存事業等)を含めた横浜みどりアップ計画全体を対象とする特別会計により、横浜みどり税の用途を明確にします。

■ みどり保全創造事業費会計(特別会計)の財源について



■ みどり税の用途

横浜みどり税の用途は、次の4項目に整理しています。

- ・ 樹林地・農地の確実な担保
- ・ 身近な緑化の推進
- ・ 維持管理の充実によるみどりの質の向上
- ・ ボランティアなど市民参画の促進につながる事業

事 業 内 容

(1)	樹林地保全創造費 (横浜みどり税 充当) 1款1項1目	
	本 年 度	千円 3,518,533
	前 年 度	3,487,400
	差 引	31,133
財 源 内 訳	国・県	986,313
	市 債	1,289,000
	その他	—
	基金繰入	1,243,220
	一般繰入	—

まとまりのある緑の空間は、都市の骨格をつくり、クールスポットであると同時に生物生息の場であり、洪水抑制や避難場所になるなど防災・減災にも役立ちます。さらには、樹林地や農地が一体となって横浜らしく美しい景観を形成している地域も存在します。

これらを次世代に引き継いでいくため、森のもつ多様な役割に配慮しながら、土地の所有者や地域住民など、市民・事業者とともにその保全や育成をより一層進めます。

緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り、市民の森等や都市公園内のまとまった樹林を対象とした保全管理計画に基づく森づくりの推進、緑地保全制度により指定された樹林地における維持管理の支援、森に関するイベントや講座の実施などを行います。

1 樹林地の確実な保全の推進 2,899,250 千円

(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り事業 2,899,250 千円

市内に残る貴重な緑地について、緑地保全制度の地区指定を積極的に進めるとともに、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に対応します。

横浜みどりアップ計画による地区指定の拡大に伴い、増加する買取りに対応します。

- ・新規指定面積：100ha（1款2項1目と合わせた面積）
- ・買取見込面積：10.8ha（1款2項1目：8.9ha、計19.7ha）
- ・保全した樹林地の整備

2 良好な森を育成する取組の推進 594,583 千円

(1) 生物多様性・安全性に配慮した森づくり事業 580,713 千円

ア 森づくりガイドライン等を活用した森の育成 324,323 千円

- ・市民の森、市有緑地及び都市公園内のまとまった樹林を対象に森づくりガイドライン等を活用し、生物多様性の保全や利用者などの安全確保のため、愛護会などと連携して森づくりを推進します。また、散策路などの施設の修繕や、維持管理に必要な施設の整備を行います。
- ・森ごとに具体的な管理の計画を定めた保全管理計画を策定し、愛護会等と連携して森づくりを推進します。

保全管理計画の策定：樹林地3か所、公園3か所

イ 指定された樹林地における維持管理の支援 107,800 千円

土地所有者の維持管理負担を軽減するため、緑地保全制度により指定した樹林地の外周部などで土地所有者が行う危険・支障樹木の除去等の維持管理への支援を行います。

- ・維持管理の支援：130件

ウ 生物多様性に配慮した防災性・安全性の向上 141,000 千円
防災や安全面の対策が必要な緑地の法面を対象に、生物多様性にも配慮した法面整備を推進します。
・法面の整備：2 か所

エ 間伐材の有効活用 7,590 千円
チップターの貸し出しによりチップ化作業を支援するなど、間伐材の有効活用を推進します。
あわせて計画的な樹林地の維持管理作業で生じた間伐材の活用方法も検討します。

(2) 森を育む人材の育成事業 13,870 千円

ア 森づくりを担う人材の育成 8,200 千円
・森づくり活動に取り組む団体の基本的な知識と安全確保、活動のスキルアップ、リーダーの養成などにつながる研修を実施します。
・森づくり活動に必要な動植物調査、作業技術などを学ぶ研修を開催するとともに、森づくり活動団体へ加入するための橋渡しを行います。また、ニュースレターやウェブサイトを活用し、森づくりに関する情報発信を行います。

イ 森づくり活動団体への支援 5,670 千円
市民の森や、都市公園内のまとまった樹林で活動する団体を対象に、森づくり活動に対する助成や、必要な道具類の貸出し、専門家派遣による支援を行います。
・市民の森等：10 団体
・公園：10 団体

3 森と市民とをつなげる取組の推進 24,700 千円

(1) 市民が森に関わるきっかけづくり事業 24,700 千円

ア 森の楽しみづくり 19,100 千円
・区民まつりなど各区での催しに合わせ、森に関わるきっかけとなるイベントや広報活動を展開します。特に、親子で参加できるイベントの充実などに取り組みます。
イベントの実施及び広報活動：36 回
・森を楽しむためのプログラムを自ら企画・運営できる人材育成のための講座などを開催します。

イ 森に関する情報発信 5,600 千円
・市民の森・ふれあいの樹林のガイドマップを作成し、市民が気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを推進します。

事業内容

(4)	樹林地保全費 (横浜みどり税 非充当) 1款2項1目		
本 年 度	千円 3,314,558		まとまりのある緑の空間は、都市の骨格をつくり、クールスポットであると同時に生物生息の場であり、洪水抑制や避難場所になるなど防災・減災にも役立ちます。さらには、樹林地や農地が一体となって横浜らしく美しい景観を形成している地域も存在します。 これらを次世代に引き継いでいくため、森のもつ多様な役割に配慮しながら、土地の所有者や地域住民など、市民・事業者とともにその保全や育成をより一層進めます。 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り、市民の森等を対象とした保全管理計画に基づく森づくりの推進、ウェルカムセンターを活用した森に関する情報発信などを行います。
前 年 度	3,314,138		
差 引	420		
財源内訳			
	国・県	976,911	
	市 債	1,944,000	
	その他	22	
	基金繰入	-	
	一般繰入	393,625	

1 樹林地の確実な保全の推進 3,114,885 千円

(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り事業 3,114,885 千円

市内に残る貴重な緑地について、緑地保全制度の地区指定を積極的に進めるとともに、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に対応します。

- ・新規指定面積：100ha（1款1項1目と合わせた面積）
- ・買取見込面積：8.9ha（1款1項1目：10.8ha、計19.7ha）
- ・保全した樹林地の整備

2 良好な森を育成する取組の推進 159,673 千円

(1) 生物多様性・安全性に配慮した森づくり事業 159,673 千円

ア 森づくりガイドライン等を活用した森の育成 158,753 千円

市民の森、市有緑地及び都市公園のまとまった樹林地を対象に森づくりガイドライン等を活用し、生物多様性の保全や利用者などの安全確保のため、愛護会などと連携して森づくりを推進します。また、維持管理に必要となる倉庫の整備や測量等を実施します。

イ 間伐材の有効活用 920 千円

計画的な樹林地の維持管理により発生する間伐材の適正なチップ化作業を行うための研修等を通じ、間伐材の有効活用を推進します。

3 森と市民とをつなげる取組の推進	40,000 千円
(1) 市民が森に関わるきっかけづくり事業	40,000 千円
ア 森に関する情報発信	40,000 千円

市内にあるウェルカムセンター5館において、それぞれの展示施設を活用し、森を安全に散策するための情報や生き物情報など発信する「森の情報提供」、森を知り、楽しむための講座などを開催する「普及啓発・環境教育」を行います。

ウェルカムセンター5館

- ・自然観察センター（横浜自然観察の森）〈栄区〉
- ・にいほる里山交流センター（新治里山公園）〈緑区〉
- ・虹の家（舞岡ふるさと村）〈戸塚区〉
- ・四季の家（寺家ふるさと村）〈青葉区〉
- ・環境活動支援センター 交流スペース〈保土ヶ谷区〉

平成27年度 利活用事業年間スケジュール

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
市民が森に関わるきっかけづくり事業	森の楽しみづくり								10/24 ●	11/14・28 ●	12/5 ●	1/23 ●				
	区民まつり	南区				7/25,26 ●●										
	よこはま森の楽校	企画会議			5/29 ●	6/18 ●	7/17 ●		9/29 ●							
		よこはま森の楽校イベント(みなとみらい)									11/22 ●●					
		各大学	フェリス女学院					7/25 ●								
			東洋英和女学院大学			6/6 ●●					10/10・24 ●●					
	東京都市大学					6/27 ●●	8/1 ●●									
	個別案件	上郷森の家 生き物ウォッチング							8/15,22 ●●●●							
		森の中のプレイパーク(図書館連携、5回)	3/5~15 保土ヶ谷図書館			7/23,28,30,31 ●●●●	8/4 ●●									
		写真パネル巡回展示			5/2~5/15 港北図書館 ●●●●		7/14~7/28 中図書館 ●●●●				12/4~1/18 金沢図書館 ●●●●					
馬車道まつり									11/3 ●●							
インタープリター養成講座		4/11 ●●						9/27 ●●	10/10,25 ●●	11/3,8 ●●						
ウェルカムセンター	四季の家(寺家ふるさと村)	3/15: 野草を見る会 3/8: 野鳥観察会	5: 寺家ふるさと村ガイドツアー 19: 野草を観る会	3: 寺家ふるさと村ガイドツアー 17: 野草を観る会 18: 野外解説(鴨志田緑小学校)	7: 寺家ふるさと村ガイドツアー 21: 野草を観る会 28: メダカ観察会	5: 寺家ふるさと村ガイドツアー 19: 野草を観る会	2: 寺家ふるさと村ガイドツアー	6: 寺家ふるさと村ガイドツアー 12: トンボ観察会 20: 野草を観る会 27: 野外解説(団体対応・青葉区)	4: 寺家ふるさと村ガイドツアー 11: 野鳥観察会 18: 野草を観る会	1: 寺家ふるさと村ガイドツアー 15: 野草を観る会	13: 野鳥観察会 13: 苔玉づくり教室(大人向け) 6: 木の葉のリース作り(大人向け)	10: 寺家ふるさと村ガイドツアー 14: 野鳥観察会	7: 寺家ふるさと村ガイドツアー 14: 野鳥観察会	6: 寺家ふるさと村ガイドツアー 13: 野鳥観察会 20: 野草を観る会		
	にいほり山交流センター(新治里山公園) ※WC事業及び学校・企業対応		27: 学校協力@新治小(田おこし) 29: 社員向け森歩き講座(京セラコネクタプロダクト)	13: 学校協力@新治小(くろつけ) 16: ホタル守り隊(ガイドダンス) 28: 学校協力@新治小(代かき) 30: 企業協力	5: 学校協力@新治小(田植え)	10: 学校協力@新治小(まちたんけん) 11: ホタル守り隊(調査報告会) 15: 学校協力@新治小(田の草取り)	○: 新治小(田んぼ開花観察) 22, 29: クワムシ調査		○: 新治小(稲刈り)	○: 新治小(脱穀、糶摺り)		※小学校3年生「昔の暮らし」受入	※小学校3年生「昔の暮らし」受入 ○: 新治小(田んぼまとめ)			
	環境活動支援センター ※下線は支援センター直営イベント	3/1: 葉っぱのプログラム(サ)	26: 春の観察会 28: 幼児親子森遊び(1)	10: お茶で遊ぼう 17: 幼児親子森遊び(2) 10, 17, 24, 31: 横浜美術館イベント	21: 昆虫クラフト 28: お魚観察会 6: 森を撮ってみよう(1) 7: 横浜美術館(苔玉) 13: 親子環境教育イベント(1)	4, 5: セタ 26: トンボ教室 26, 8/1, 2, 23, 29, 30: 夏休み昆虫相談室	9: 標本作り 23: 夏の観察会 18: 子どもアドベンチャー	6: 花びらで絵を描こう 27: 赤とんぼのすべて 19, 26: 親子自然体験イベント	3: 森を撮ってみよう(2) 4: ドングリで遊ぼう 25: 秋の観察会 24: 幼児親子森遊び(3) ○: 収穫	15: 木の観察 22: ペットボトルビオトープ作り 29: 親子環境教育イベント(2)	6: ミニクリスマスツリー 27: ヤゴの世界 12: 横浜美術館イベント(苔玉) ○: 餅つき	24: 冬の観察会 31: 鳥の観察 16: 親子環境教育イベント(3)	8: ドングリお雛様 28: 外来生物駆除	6: 春の野草観察 27: 抜け殻標本作り		
	虹の家(舞岡ふるさと村)		3: 平日探鳥会	8: 平日探鳥会 10: 写真講座① 16: 自然観察会ウォーキング 17: 写真講座② 24: 写真講座③ 27, 28: トコロジスト講座 31: 写真講座④	5: 平日探鳥会 13: 夜の観察会(雨天中止)	3: 平日探鳥会(雨天中止) 25: 夜の森探検	1: 夜の森探検 7: 平日探鳥会 21: 昆虫標本の作り方	4: 平日探鳥会 5: 鳴く虫探聴会 6: 写真講座① 13: 写真講座② 27: 写真講座③	2: 平日探鳥会 4: 写真講座④ 3, 10: トコロジスト	6: 平日探鳥会 7: 自然観察会ウォーキング	4: 平日探鳥会	8: 平日探鳥会	5: 平日探鳥会 6: 土曜探鳥会	4: 平日探鳥会 5: 土曜探鳥会		
	自然観察センター(横浜自然観察の森)			27: 事前学習(本郷台小学校)	8: 宿泊体験向け学習(本郷台小学校) 12: CSR支援(三菱電機) 23: 宿泊体験向け学習(齊藤分小学校) 27: CSR支援(日清オイリオ株式会社)	26: 知る守るシリーズ(水辺の生き物)	8: 知る守るシリーズ(水辺の生き物) 28: 事前学習(星川小学校) ◆宿泊体験向け学習説明会(上郷・森の家)	7: 宿泊体験向け学習(星川小学校) 12: 知る守るシリーズ(草地のバッタ編)	3: 知る守るシリーズ(草地のバッタ編) 25: 宿泊体験向け学習(末吉小学校) 30: CSR活動支援(東芝メモリーズ株式会社)	14: CSR活動支援(三菱東京UFJ信託銀行)	5: 知る守るシリーズ(林の野鳥編)	16: 知る守るシリーズ(林の野鳥編)				

※森の中のプレイパーク実施場所
 ・7/23 保土ヶ谷図書館(川辺公園)
 ・7/28 都筑図書館(都筑中央公園)
 ・7/30 神奈川図書館(立町みはらし公園)
 ・7/31 瀬谷図書館(本郷三丁目公園)
 ・8/4 中図書館(本牧山頂公園)

※自然観察センターCSRは4件決定(実施時期未定)
 ①日清オイリオ株式会社 6月27日済
 ②東芝メモリーズ 10月30日(予備日11月6日)
 ③三菱電機(株)神奈川支店 6月12日
 ④三菱東京UFJ信託銀行上大岡支店 11月14日(予備日11月21日)

7月9日: 意見交換会(舞岡ふるさと村虹の家)
 広報よこはま戸塚区版原稿(舞岡)

みどりアップQ原稿


みどりアップQ原稿

市民が森に関わるきっかけづくり事業 平成26年度実績

(横浜みどりアップ計画平成26年度事業報告書より抜粋)

8 森の楽しみづくり

- 森に関わる市民の裾野を広げるため、森に関するきっかけとなる親子で参加できるイベントや広報活動を展開します。
- 森を楽しむためのプログラムを自ら企画・運営できる人材を育成するための講座などを開催します。

◆平成 26 年度の実績		平成 26 年度 目標	<参考> 5か年目標
森に関わるイベント等の実施	107 回 (9,730 人)	36 回	180 回
樹林地を利用したウォーキングイベントの開催	9 回 (182 人)		
間伐材を活用したクラフト教室の開催	66 回 (5,604 人)		
 親子で参加できる森に親しむイベントの開催	20 回 (3,845 人)		
図書館と連携したイベントの開催	5 回 (99 人)		
森に関わるきっかけづくりパネル展示の実施	7 回 (一 人)		
インタープリター養成講座の開催	全 8 回 (26 人が修了)		

■ 樹林地を利用したウォーキングイベントの開催

市民の森やふれあいの樹林を等を利用したウォーキングイベントを開催しました。



ウォーキングイベント開催区		
中区	港南区	保土ヶ谷区
金沢区	金沢区 (中区主催)	港北区
都筑区	青葉区	瀬谷区・旭区

【写真】

・「みどりアップ健康ウォーキング」の様子
 (港北区/熊野神社市民の森)

3 事業・取組の実績

(2) 事業・取組の実績 — ア 市民とともに次世代につなぐ森を育む

■ 間伐材を活用したクラフト教室の開催

間伐材に触れ、楽しみながら森づくりについて学ぶクラフト教室を市内各所で開催しました。



参加者の声

- かわいいテントウムシを作ることができて満足！
- 地域のイベントでも昆虫キーホルダーを活用したい。
- 色を塗るのが楽しかった。

【写真】

- 森の恵みクラフト教室（南区/南区民まつり）

■ 親子で参加できる森に親しむイベントの開催

市内大学と連携した「森の楽校」や夜の森を探検する「生き物ウォッチング」など多くの市民を対象とした様々なイベントを開催しました。



参加者の声

- 横浜の都市のイメージだけでなく、自然の豊かさという別の一面に触れることができ、有意義でした。
- 夜の森を歩いて楽しかったです。森は自然を守っていることがわかりました。

- 【写真】「よこはま森の楽校～フェリス女学院大学でチョウがつなぐ緑のネットワーク調査～」の様子（泉区/フェリス女学院大学）

■ 図書館と連携したイベントの開催・パネル展示の実施



子どもたちが木とふれあい、遊びを通して自然や生き物に対する理解を深め、森林環境を考えることが出来るプレイパークイベントを市内5館の図書館と連携して開催しました。

また、森に関わるきっかけづくりのパネル展示を市内7館の図書館で実施しました。

【写真】

- 「森の中のプレイパーク」の様子（都筑区/都筑図書館）

■ 自然解説、プログラムリーダーの育成



森を楽しむためのプログラムを自ら企画・運営できる人材を育成するための「インタープリター養成講座」を実施し、26人が講座を修了しました。

- 【写真】「インタープリター養成講座」の様子（保土ヶ谷区/環境活動支援センター）



9 森に関する情報発信

- 市民の森・ふれあいの樹林のガイドマップを作成し、市民が気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを推進します。
- ウェルカムセンター5館を運営し、市民が森について理解を深めるための取組を推進します。

◆平成 26 年度の実績		平成 26 年度 目標	<参考> 5か年目標
	ガイドマップ作成	3地域	新規に指定された市民の森等を対象に作成
	ウェルカムセンターの運営	推進	推進

■ **ガイドマップの作成**

ウォーキング等の散策にも活用できるよう、近接する市民の森、ふれあいの樹林を 1 枚にまとめたガイドマップを作成しました。

パンフレット作成地域	区
鍛冶ヶ谷市民の森	栄
南本宿市民の森・市沢ふれあいの樹林・境木ふれあいの樹林	旭、保土ヶ谷
今宿市民の森・鶴ヶ峰ふれあいの樹林	旭



【写真】南本宿市民の森、市沢ふれあいの樹林、境木ふれあいの樹林ガイドマップ

■ **ウェルカムセンターの運営**

市内5館にあるウェルカムセンターでは、各館の特徴を生かしながら「森の情報提供」、森を知り、楽しむための講座等を開催する「普及啓発・環境教育」を行いました。



【写真】森の情報提供
 (栄区/横浜自然観察の森自然観察センター)



【写真】「森を知り楽しむための講座」の様子
 (保土ヶ谷区/環境活動支援センター交流スペース)

2015 年度環境創造局ウェルカムセンター事業「レンジャーと森を歩こう」

横浜市立星川小学校 実施企画書

1. 全体概要

タイトル:「発見！横浜の自然～小さな森(桜ヶ丘緑地)と大きな森(横浜自然観察の森)～」

- 対象:星川小学校 4 年生 55 名 12 班(各 4～5 人) 当日は4つのグループに分かれて行動
- 学校担当: 当日は+教員 2 名、ボランティア4名の計8名
- 横浜自然観察の森担当:(公財)日本野鳥の会レンジャー 黒川 マリア、尾崎理恵

●目標: 桜ヶ丘緑地に興味・関心をもって追究する活動を通して、

①諸感覚を使った自然観察の方法とフィールドマナーについて知る	事前&当日
②横浜市の緑被率の変化と、桜ヶ丘緑地と観察の森の位置関係を認識する	事前
③桜ヶ丘緑地の自然観察の結果を振り返り、同季節の観察の森の自然について知り、実施当日に向けた動機づけを行う	事前
④観察の森では、環境と生きものに着目した観察や検索方法を知る。さらに生きものどうしのつながり(食う、食われる)の視点をもって観察する。 ・草地—バッタ ・湿地—クモ ・川—水中の生物	当日
⑤いたち川沿いにある崖からしみ出している水の観察を通じて、4年社会「水の循環」で学ぶ川の始まりについて確認する。	当日

桜ヶ丘緑地(小さい森)
 面積: 約3ヘクタール
 学校からの距離: 780m
 ・保土谷公園に隣接している
 ・4年生が定期的に自然観察している。
 5年生が田んぼで活動している。

●全体概略

<事前学習 8/28 9:30-11:15 の約 1 時間 30 分 (休憩 10 分含む)>

9:30 オリエンテーション

9:45	②横浜市の緑被率の変化と、桜ヶ丘緑地と観察の森の位置関係を認識する	事前
------	-----------------------------------	----

横浜市の緑の減少の変化、桜ヶ丘緑地と観察の森の緑地の位置、大きな森と小さな森の意義について映像をみせながら解説

10:00	③桜ヶ丘緑地の自然観察の結果を振り返り、同季節の観察の森の自然について知り、実施当日に向けた動機づけを行う	事前
-------	---	----

・1 学期に行った桜ヶ丘緑地に「どんな環境があったか」「どんな生き物がいたか」について、ふりかえる。
その後全体で共有

10:15-25 休憩

10:25 ・観察の森の森について、場所や広さ、環境(湿地、川、林、草地)、フクロウ、ノウサギ、トノサマバッタ、ホタルなどが生息していることを解説。桜ヶ丘緑地との違いがあるかどうか、投げかける。

10:35	①諸感覚を使った自然観察の方法とフィールドマナーについて知る	事前&当日
-------	--------------------------------	-------

フィールドマナーについて室内で解説後、校庭に出て諸感覚を使った自然観察の練習を行う。

11:15 終了

<体験学習当日 9/7 12:30-16:00 の 3 時間 30 分 >

12:30 事前学習ふりかえり(研修室)

13:00

④観察の森では、環境と生きものに着目した観察や検索方法を知る。さらに生きものどうしのつながり(食う、食われる)の視点をもって観察する ・草地—バッタ ・湿地—クモ ・川—水中の生物	当日
⑤いたち川沿いにある崖からしみ出している水の観察を通じて、4 年社会「水の循環」で学ぶ川の始まりについて確認する。	当日

ポイント

- ・観察の森の生きもの記録
- ・草地(ノギクの広場)—バッタの捕まえかた、持ち方と検索方法を知る。
草地の状態によって、種類が異なることを伝える。
- ・湿地(ヘイケの湿地)—クモやクモの網にかかったエサの観察をしてクモによって網やエサが違うことも知る。
- ・川(いたち川)—川の中のいきものの観察と検索の方法を知る。
—水のはじまりについて、4年生社会「水の循環」復習

15:30 当日のふりかえり

16:00 終了

●当日プログラムスケジュール

晴バージョン

		12:30	12:40	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	14:40	14:50	15:00	15:10	15:20	15:30	15:40	15:50	16:00
尾崎	1	オリエンテーション	移動	バツタ		移動	クモ	休憩	移動		源流	休憩・移動	水辺の生きもの		移動	まとめ							
	2		移動	クモ	移動	バツタ		移動		水辺の生きもの		休憩・移動	源流	移動									
黒川	3		移動	水辺の生きもの		休憩・移動	源流	移動		バツタ		移動	クモ	移動									
	4		移動	源流	休憩・移動	水辺の生きもの		移動		休憩	クモ	移動	バツタ		移動								

※源流と水辺の生きもの活動の間は 10 分あるのでトイレや水分補給、ワークシートの記入などに当ててください

雨バージョン

※雨天の場合は当日 10 時の天気予報で判断

		12:30	12:40	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	14:40	14:50	15:00	15:10	15:20	15:30	
黒川	1	オリエンテーション	センター見学	移動	モンキ	移動	ヘイケ		移動	源流	移動	水辺の生きもの		移動		まとめ					
	2		移動	モンキ	移動	ヘイケ		移動	源流	移動	水辺の生きもの		移動	センター見学							
尾崎	3		移動	モンキ	移動	ヘイケ		移動	源流	移動	水辺の生きもの		移動	センター見学	バツタ検索						
	4		移動	モンキ	移動	ヘイケ		移動	源流	移動	水辺の生きもの		移動	センター見学	バツタ検索						

●事前学習プログラム詳細

9:30 オリエンテーション

- あいさつ・スタッフ紹介
- レンジャーという仕事について映像で解説

9:45

②横浜市緑の減少の変化と、桜ヶ丘緑地と観察の森の位置関係を認識する	事前
-----------------------------------	----

- 横浜市緑の減少の変化、桜ヶ丘緑地と観察の森の緑地の位置、大きな森と小さな森の意義について
- 横浜市緑の減少を年代ごとに、変化に気づけるように投げかけ
 - 現在の市の緑の状態について、みどりの10大拠点の図を見せ、虫食い状に残されている状況と横浜市のみどりを守る取り組みについて説明
 - 桜ヶ丘緑地と観察の森の位置について確認をしたうえで、小さな森と大きな森の役割についてもふれる

10:00

③桜ヶ丘緑地の自然観察の結果を振り返り、同季節の観察の森の自然について知り、実施当日に向けた動機づけを行う	事前
---	----

- 1学期に行った桜ヶ丘緑地に「どんな環境があったか」「どんないきものがいたか」について、ふりかえる
- ワークシートに、桜ヶ丘緑地で観察した環境といきものについて、ワークシートにかきだしながらふりかえる。友人や先生と話しながら思い出すように伝える。
 - 全員で書いたことを共有

10:15-25 休憩

10:25 観察の森の森について

- 場所や広さ、環境(湿地、川、林、草地)については映像を見せながら説明。またフクロウ、ノウサギ、ゲンジボタルなどが生息していることを解説。
- 桜ヶ丘緑地との違いがあるかどうか、投げかけ。

10:35

①諸感覚を使った自然観察の方法とフィールドマナーについて知る	事前&当日
--------------------------------	-------

- フィールドマナーについて室内で解説
- 特にいきものを持ち込まない、持ち帰らないことについて説明する

10:45-50 移動

- 校庭に出て諸感覚を使った自然観察の練習を行う。
- 目、耳、鼻、手を使って生きものを探す方法を伝える
- 校庭で範囲を決め自由に探してもらう

11:05 どんな場所で何が見つかったか、共有する

11:15 終了

●必要資材

学校または児童にご用意いただきたいもの		
<input type="checkbox"/> パソコン(P.P 入り)	<input type="checkbox"/> プロジェクター	<input type="checkbox"/> ホワイトボード
<input type="checkbox"/> 探検バッグまたは下敷き	<input type="checkbox"/> 筆記用具	

●当日プログラム詳細

12:30 オリエンテーション

あいさつ

今日のテーマ

今日やること

各ポイントでの活動の他、移動中も歩きながら生きものを探す

今日活動する場所について園内マップで示す

事前授業の振り返り

・横浜市の緑について

・諸感覚について

注意事項

・水分補給、トイレ

・ハチ、ヘビ、ウルシ類 イラガ

※トイレに行きたい人は出発前に

13:00 野外での活動

④観察の森では、環境と生きものに着目した観察や検索方法を知る。さらに生きものどうしのつながり（食う、食われる）の視点をもって観察する (1) 草地—バッタ (2) 川—水中の生物 (3) 湿地—クモ	当日
--	----

○ワークシートを持って生きものを探しながら歩く

園内の移動は2グループずつレンジャーが率いる

(1) 水中の生きものを調べてみよう(25分) 場所:ミズキの道⑭付近

ねらい:水辺の生きものの調べ方を実践し観察の森の源流部に生息する水生生物を知る

①環境について:ここは川の始まりに近い部分と伝える

環境を見る(5分)

・水を触って温度を予想、流れがあるかも体感する

②生きもの調べ(10分)

レンジャーが水生生物の取り方を見せる

採取:レンジャーが川底の砂利を採取し、トレーに入れたものを児童に渡す

砂利の中から生きものを探し出し、絵あわせシートを見ながら分類用のトレーに生きものだけ分けていく

③観察・記録:(5分)

レンジャーが主な生きものを解説

ワークシートに何がとれたか記入

④まとめ(5分)

ここにいる生き物は水がきれいな場所にくらす生き物と伝える

生きものを元の場所に戻す

(2) バッタを調べてみよう(25分) 場所:モンキチョウの広場

ねらい: バッタの捕まえ方、調べ方、持ち方、観察の森の草地にどんなバッタがいるかを知る

- ①環境について:ここは周囲を森で囲まれた草地と伝える 草丈についても言及
- ②バッタの捕獲(10分)
 - バッタの持ち方を指導
 - 全員で輪を作り、バッタを中心に追い込み捕まえる
 - ・班ごとに同じプラケースに入れる
- ③観察・記録: バッタ検索表を使って自分の班は何がとれたか調べ記録する(10分)
- ④まとめ(5分)
 - バッタといっても種類によって形が違う事、環境によって種類が異なる事を伝える
 - バッタを元の場所に返す

(3) クモの観察(20分) 場所:ヘイケボタルの湿地

ねらい: クモの体のつくりや網にかかっている餌の観察を通して生きものは食う、食われるの関係でつながっていることを知る

- ①環境について:ここは周囲を森で囲まれ、背の高い草が生える池と伝える
- ②クモ探し(5分)見られるクモ:ナガコガネグモ
- ③観察・記録
 - 絵あわせシートを使って種類を調べる
 - 模様、形をよく観察
 - 気づいたことを書く
 - ☆引っかかっているものに注目
- ④まとめ:

クモは虫を捕まえるために網を張る。クモは(トンボなどの)虫を食べる。クモも鳥に食べられる。生きものは食う食われるの関係でつながっている。

・森を歩きながらジョロウグモなど別の種類のクモの観察も促す(レンジャー)

(3) 川の始まりを見てみよう(15分) 場所:ミズキの道⑭付近

⑤コナラの谷付近の観察を通じて、4年社会「水の循環」で学ぶ川の始まりについて確認する。	当日
---	----

ねらい: 川の始まりを見て、森が天然の貯水タンクの役目をしていることを実感する

- ①雨が降っていないのになぜ川は流れ続けているのか問いかける
- ②水がしみ出している所を順番に見学する
- ③まとめ:

このような流れが合わさって川の源流を作り出す。森は天然のタンクであり、木の根っこがスポンジの役割をして降った雨をためこむ。それが少しずつしみ出していき、合流して川になる。

15:30 まとめ

- 今日やったことの振り返り

・どんな場所があった？諸感覚を使ってどんな生きものを見つけた？

草地

川

湿地

・なぜ、川の水は流れ続けている？

・クモは何を食べていたか？

桜ヶ丘緑地との違いについて考える

これから続けてほしいこと

季節を変えて秋や冬も桜ヶ丘緑地で生きものを観察してみしてほしい。

(写真を見せて)こんなに大きな木もある。地域の生きものにとって大切な場所

周りのお友達やお父さんお母さんや低学年の子にも大切な場所だという事を伝えていってほしい

●必要資材

学校または児童にご用意いただきたいもの		
<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 飲み物	<input type="checkbox"/> 探検バッグ
<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/>	

●雨の日プログラム

晴れバージョンとの違い

- ・ワークシートは持っていかず、室内に戻ってから記入する
- ・グループごとではなくクラスごとに分かれ行動
- ・水辺のいきものやクモの観察のところは観察にとどめる

●必要資材

学校または児童にご用意いただきたいもの		
<input type="checkbox"/> レインコートなど雨具	<input type="checkbox"/> 探検バッグまたは下敷き	<input type="checkbox"/> 筆記用具
<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/>	